



学校生活をより充実させていく過程

副校長 廣野 寛子

新型コロナウイルス感染症が5月8日から5類になり、もうすぐ半年が経とうとしています。

スポーツフェスティバル、音楽会を始め、遠足、生活科見学、社会科見学など、子どもたちの学校生活が少しずつコロナ前に近い形に戻ってきました。教職員は三年前の記憶をたどりながら計画を立てています。本校ではこの三年間で教職員の異動が多くあり、コロナ前の高井戸小の行事を全く知らない教職員の方が多くなりました。コロナ前の学校を少し知っているのは4年生以上の子どもたちだけです。それでも、バスや電車の乗り方のマナーや方法、人数確認のために整列すること、道路を集団で安全に通行する歩き方などの指導が再び必要になりました。子どもたちの行事に引率すると、新型コロナウイルス感染症のために、子どもたちに必要な知識や体験の積み重ねができていなかったということを感じました。久しぶりに学校外で集団で学習することもあり新しいこと

が多く、本来は高学年だったら既に身に付けているはずだったことをこの半年間でなんとか学ぶことができました。

「コロナ禍」と呼ばれた期間、子どもの体力低下やコミュニケーション力不足も指摘されていますが、全てが悪いことばかりではありません。「1人1台端末」を整備するGIGAスクール構想が前倒しになりました。子どもたちは驚くべき速さでタブレット端末に親しみ、中には教職員よりも豊富な知識で学習をリードする子どもも出てきました。

教職員も「今までずっとやってきたから」という思考から離れ、時代や実態に合った学校行事の在り方を工夫しています。

11月には音楽会があります。子どもたちが心を一つに合わせて歌と合奏を披露します。保護者の皆様には、学年ごとに人数制限なして入れ替え制でご参観いただきます。ぜひご来校いただき温かい拍手を送ってくださるようお願いいたします。



11月の生活目標 『ストップ!スピードローカー!』

生活指導部

先日の朝会で「意識をして生活しよう」という話をしました。様々な場面で各自が意識をして生活をしたいということです。廊下歩行の際には、「廊下を歩く。」「走っているとどうなるか想像する、考える。」このような意識を高めていくことで、学校がみんなにとって安心安全の場所になると思っています。

ある日、1年生の子どもが、「スピードローカーになっちゃうよ。」と廊下を走っている友達に声をかけているところを見かけました。互いに声を掛け合えることはとても素敵です。そして、高井戸小学校のキャラクターが子どもたちの中に浸透し、意識して生活をしていることを嬉しく思いました。



4月の生活目標「校内のきまいをおぼえよう」

生活指導主任 田村香代子

いよいよ新年度が始まりました。子供たちは、それぞれに希望をもって新学年を迎えようとしていることと思います。全校児童が《学校に行くのが楽しい》と思える学校を目指して、全職員で子供たちの心を支えていきます。生活指導の重点目標《相手を思いやって行動しよう》を受けて、全校児童が優しく相手を思いやることができるよう、また気持のよいあいさつができるように、各学級・各学年で指導していきます。4月当初、どの学年も《持ち物のきまり》《遊びの約束》等学校生活のルールを確認し、学校での生活・安全面も考慮していきます。学校のきまりは、全校配布する冊子《たかいどの子ども》に載っていますので、ご家庭でもご確認の上、どうぞご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

《欠席・遅刻連絡についてのお願い》

本校の冊子《たかいどの子ども》にも書いてありますように、**お子さんが欠席する時は《たかいどの子ども》または連絡帳で連絡**してください。電話連絡は緊急時のみでお願いします。